

宝清寺

秋の諸行事

御難会・お彼岸・お会式

御難会 九月十二日(火)

宗祖日蓮上人が鎌倉龍ノ口で刃傷の御難に遭われた聖日です。現在はお寺だけで法要を行っています。

秋彼岸

九月二十日から二十六日は秋のお彼岸です。ご先祖のご供養のためにお塔婆をあげて墓参致しましょう。

お会式

お会式は宗祖日蓮聖人が亡くなられた命日です。当山では、十月十二日(木)十一時から法要を厳修致します。法要終了後たちばな会館でご供養のお弁当を召し上がって頂くよう準備致します。

◎七月四日当山本堂及び境内でNHKのド

ラマ「ハゲタカ」の撮影が柴田恭兵・栗山千明他を迎えて行われました。当初は九月二日(土)PM九時から毎週土曜日連続六回の放映の予定でしたが、ご存知の通り、柴田恭兵が肺ガンの手術をし入院した関係で、放映が来年の一月に延期になりました。放映の折りは是非ご覧下さい。

日蓮聖人遺訓⑦

「矢のはしる事は弓のちから、男のしわざは女のちからなり」(富木尼御前御書)人は一人だけでは生きられるものではない。家庭での夫婦の協力がなければ、安心して働くことは出来ない。

①身延山五重塔の寄付

お陰様で身延山五重塔の寄付も後わずかで目標額に達します。今年の十二月末日が締め切りですのでよろしくお願い致します。また、前号のたちばな新聞に同封して寄付者のご芳名を郵送致しましたところ、記載もれや誤字が数件あり申し訳ありませんでした。最終の報告では完全なものを配布したいと考えています。(二〇年秋竣工)

②七面堂の寄付

七面堂が新しく生まれ変わりました。今年檀家になられた方から、建替工事に期

住職ひと口法話⑦

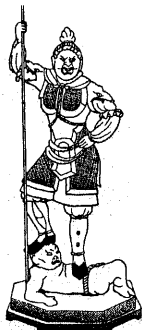
三つのご寄付に寄せられた方々の篤志に対し心からお礼申し上げます。七面堂に祭られている七面大明神の縁起は、身延の草案のすぐ近くにある高座石(現在、妙石坊)にて日蓮聖人が説法をしていたところ、妙齢な女性がいつも聴聞していました。聴聞していた人々は、その女性が聖人に寄り添うようにしていたので不審に思っていました。聖人は美しい女性の正体を知っていましたので、女性に向かって「正体を現してやりなさい」と告げました。すると、女性は聖人を見つめて、「日蓮聖人さま、私に水を下さい」と懇願しました。聖人はみずの入った花瓶を与え、女性の手の平に乗せると、たちまちに龍に変じ、花瓶にまつわりついたため、この光景を間近にした人々は驚きました。女性は囁きました。「私は、七面山の池に住むものです。私もこの末法の世を救うために現れました。法華経を信仰する人々を守護することを誓います」と語り終えると、風に乗って七面山の方角に立ち去ってしまいました。この話が日蓮聖人と七面大明神の出会いの場面、最も知られているものです。七面大明神の七曜の紋は朝鮮の初代文武王の二廟所にあり、しかも文武王は「私は東の龍となつてこの国を守る」と遺言したと言われているそうです。両者には何かつながりがあるのでしようか。いずれにしても七面大明神は法華経を信仰する人々の守護を誓っており、当山勸請の神々の一つです。墓参の折り新しく生まれ変わった七面堂にもお参りをされることをお勧め致します。(下の紋が七面大明神の七曜の紋です。)

③四天王銅像寄付

間が掛かり、七面堂周辺を汚すなどご迷惑をお掛けしたとのことで、七面堂の外の丸洗い・外壁の塗り直し・七面大明神祭壇及び内部の御簾取り付け工事・天井照明器具・畳替え・木紐・境内に鶴の木三本・柘植の木四本・梅の木一本を寄付頂きました。名前は公表しないで欲しいとのご希望でしたが、七面堂は師父日蓮上人が苦勞して建てたお堂であり、数十年経過し汚れが目立ち住職として何とかしたいと考えていた時期でもあり、大変ありがたうお名前を伏せ、内容をご紹介させて頂き、感謝の意を表したいと思えます。(全ての工事が完了しています。)



增長天(南方天尊像)



日蓮聖人銅像



広目天(西方天尊像)



多聞天(毘沙門天)(北方天尊像)